

平成22年度第10回都市経営会議

日時 平成22年10月20日(水) 11:00~11:45
会場 市長応接室
参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議 題 湯川漁港交流広場整備事業について

◎対 応 山田農林水産部長 谷崎農林水産部次長 佐藤企画調整課長
芝井水産課長

◆ 議題の趣旨 ◆

平成13年に北海道が整備に着手した湯川漁港が平成22年度に竣功を迎えることから、併せて市が整備することとしていた交流広場の整備事業について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

交流広場の整備については当初計画を変更し進めていくこととしました。事業費については引き続き協議していくこととしました。

◆ おもな発言 ◆

■ 山田農林水産部長

湯川漁港については交流広場を含む観光漁港として位置づけ事業認可を受けていることから、交流広場の整備を進めていかなければならない。平成13年に基本計画を作っているが、策定から10年を経過していることから、現状に即した基本計画に変更したい。詳細は水産課長から説明させていただく。

■ 芝井水産課長

交流広場の事業計画は、平成13年の当初計画では市の単独整備事業も含め2億9千万円の計画だったが、それぞれの工種について見直しを行い、総額1億5千万円の計画に変更したい。

当初計画に登載していた直販所については、漁協の対応が難しいこと、またテントの設営などにより対応できることから落とした。また、当初計画では市の単費事業で整備するとしていたトイレが交付金の対象となったことから、交付金事業として登載している。

計画の変更にあたっては、北海道とも協議のうえ調整したものであるが、承認いただければ水産庁に提出し、平成23年度中に計画変更されるよう進めていきたい。

■西尾市長

利用する漁船の数は確保されているのか。

■芝井水産課長

確保されている。夏場のウニ・コンブ漁の時期には、近隣の漁船利用も想定される。

■西尾市長

プレジャーボートの利用は出来るのか。

■山田農林水産部長

漁港は漁船のための施設なのでプレジャーボートの利用は出来ない。ただし観光を見据えた漁港という位置づけなので、遊覧船などを一時的に係留するためのバースは設置されている。

■谷澤副市長

取り付け道路はバスの通行は可能なのか。

■山田農林水産部長

可能だが十分な広さがあるとはいえない。取り付け道路の整備は本計画とは別になっているので、別途北海道に整備をお願いしている。

■西尾市長

トイレの設置箇所について、道路が拡幅整備された場合に引っかかる可能性がある。緑地やベンチにも近接している。別の場所にした方がいいのではないのか。

■山田農林水産部長

現在の設置予定箇所は確定したものではない。実施段階で調整可能である。

■谷澤副市長

観光漁港として位置づけがされている以上、市も観光資源としての利用を考えていかなければならない。近傍でのイベント時にバス駐車場として活用するなどして欲しい。

■西尾市長

事業費についてはどうか。

■片岡財務部長

交流広場が必要なのか議論・整理が必要だ。1億5千万円も使うのだから、どういう戦略や位置づけかしっかり考える必要がある。

■西尾市長

交流広場の整備は漁港整備の条件なのか。

■ 芝井水産課長

交流広場の整備とセットで漁港整備の承認が得られている。

■ 西尾市長

国との約束事であれば自治体としては出来ないとはいえないのではないかと。

■ 山田農林水産部長

交流広場の整備により、漁業者以外の人も使える漁港、観光客も利用する都市型の漁港として整備を進めてきた経過がある。交流広場を整備できませんとはならない。財務部の指摘を受け、コンセプトが崩れない範囲で事業費の圧縮を図り、変更案を作成した。平成 13 年の計画は生きているので、計画変更するという事で対応したい。

■ 上戸総務部長

時代の変化の中で漁船の遊漁利用なども多くなってきている。市民や観光客も利用する漁港との位置づけにしている以上、トイレの整備は必要なのではないかと。

■ 小柏副市長

カラー舗装まで必要なのか。誰が使うのかよく見えない。観光客がここまで足を伸ばすのかも疑問だ。

■ 片岡財務部長

観光漁港とするのであれば、そのコンセプトや具体がなければいけないのではないかと。トイレも事業費が過大ではないかと。

■ 山田農林水産部長

遊漁としての利用や観光客を取り込んだ都市型漁港としての活用など、素材は色々ある。

■ 上戸総務部長

この地域には、海産物の物販スペースやバスの待機場所などが必要とされており、色々な活用策が考えられるのではないかと。交流広場の整備を前提として漁港の整備を進めてきた以上、全く手をつけないというわけにはいかない。

■ 小柏副市長

事業費については検討の必要がある。

■ 西尾市長

北海道とも詰めているのか。

■ 芝井水産課長

北海道とも協議のうえで変更案を作成したが、ある程度の変更は可能だ。

■谷澤副市長

コンセプトをどう生かすのか考えを整理するとともに事業費についても可能な限り切り詰め、前に進むしかない。

■山田農林水産部長

コンセプト上、この程度の施設整備は必要ということで示させていただいたが、それぞれの施設の事業費については再考の余地があるものと思っている。

■西尾市長

この周辺にはトイレもない。国と北海道との信義の問題でもある。交流広場の整備は進めることとする。事業費については財務部と協議のうえ詰めていってもらいたい。